



虎の門病院と黒柳医師

鳥集
徹

ジャーナリスト
大幸医師（左）と北川医師



全国外科医
大アンケート

「がん手術の 達人」 58人

がん研有明病院



(上左) 長谷川医師、(上右) 能城医師
(下左) 関本医師、(下右) 稲本医師

ライバルが認める

大腸がん 胃がん 食道がん 編

大腸がん

医師名	医療機関 所属・肩書き	所在地	特色
竹政伊知朗	札幌医科大学 消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座教授	北海道	大腸がん手術の国内リーダーの一人。国内外から評価される高い技術と豊富な経験を武器に、経肛門的手術からロボット手術まで最新の低侵襲治療を提供する。
北城秀司	斗南病院 鏡視下手術センター長	北海道	へそに開けた穴一つで手術する単孔式手術のエキスパート。肛門に近い直腸がんでも肛門温存手術を施行。直腸腫瘍は腹部に傷のない経肛門的手術で切除。
大塚幸喜	岩手医科大学附属病院 外科特任准教授	岩手県	97年から腹腔鏡手術を開始。昨年末までに手術数は1900例を超えた。患者個々の病態、状態に合わせた最適な治療の提供と後進の教育に力を注ぐ。
内藤剛	東北大学病院 胃腸外科長・特命教授	宮城県	大腸がん、特に直腸がんの低侵襲治療や肛門温存手術、他科の専門医と連携する集学的治療に力を入れる。患者の状態に応じた最適な治療を進めている。
山口茂樹	埼玉医科大学国際医療センター 消化器病センター長	埼玉県	結腸がん、直腸がん共に9割以上で腹腔鏡を用いる。各科と連携し、内視鏡切除、抗がん剤、放射線を含む最適な方法を選択、組み合わせで治療にあたる。
伊藤雅昭	国立がん研究センター東病院 大腸外科長	千葉県	大腸がんの中でも直腸がん手術の比率が高いのが特徴で、根治性だけでなく、排便、排尿、性機能をできるだけ残す機能温存手術に取り組んでいる。
福永正氣	順天堂大学医学部附属浦安病院 消化器・一般外科特任教授	千葉県	大腸がん腹腔鏡手術のバイオニアの一人。症例数は2500例を超え、大半が腹腔鏡手術。単孔式手術や肛門温存手術など先進的な技術も導入している。
絹笠祐介	東京医科歯科大学医学部附属病院 消化器外科学分野教授（9月1日に移籍）	東京都	腹腔鏡手術に積極的に取り組み、直腸がんロボット手術は国内トップの実績。合併症が少ないなど優れた成績を残し、進行がんでは拡大手術も選択する。
黒柳洋弥	虎の門病院 消化器外科（下部消化管）部長	東京都	腹腔鏡直腸がん手術を多数手がけ、術前化学放射線療法を用いた肛門温存にも積極的に取り組む。総合病院の長所を生かし、合併症がある患者も対応する。
的場周一郎	虎の門病院 消化器外科部長 虎の門病院分院 外科部長	東京都 神奈川県	高度進行大腸がんも、化学療法や放射線治療など集学的治療を組み合わせ、極力腹腔鏡で手術する。治療不能な患者も終末期まで手術時の主治医が診ている。
福長洋介	がん研有明病院 消化器センター大腸外科副部長	東京都	大腸がんの腹腔鏡手術に、黎明期から取り組んできた。「大腸がんは手術で治す」をモットーに、すべてのがんを取り切る心構えで手術に臨む。
小西毅	がん研有明病院 消化器センター大腸外科医長	東京都	昨秋まで1年間、米最高峰のがんセンターに留学。ほぼ全症例を腹腔鏡で手がけ、直腸がんの肛門温存手術に優れる。抗がん剤や放射線の治療も経験豊富。
秋吉高志	がん研有明病院 消化器センター大腸外科副医長	東京都	年間手術症例数は国内最多。低侵襲の腹腔鏡手術に加え、がんの進行度に応じて術前化学療法や放射線療法を組み合わせ、最大の治療効果をめざす。
國場幸均	聖マリアンナ医科大学横浜西部病院 消化器・一般外科教授（副院長）	神奈川県	草創期から腹腔鏡を開始。最新の低侵襲（RPSなど傷の少ない）手術に取り組む他、高難度手術を定型化し、合併症を軽減する安全な手技の普及に努める。
渡邊昌彦	北里大学病院 一般・消化器外科科長 北里大学北里研究所病院 副院長	神奈川県 東京都	92年に国内で初めて行われた、腹腔鏡による大腸がん手術を執刀した第一人者。モットーに「最先端の医療技術を最高のチームワークで」を掲げる。
渡邊純	横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター 講師	神奈川県	腹腔鏡手術のエキスパート。洗練された手技で地域医療に貢献する一方、肛門温存、合併症低減の研究や、リンパ流評価による個別化手術の開発に取り組む。
植松大	佐久総合病院佐久医療センター 消化器外科副部長	長野県	直腸がんを含む下部消化管外科の手術は、99%を腹腔鏡で実施。がんの進行度に応じた術式を選択して、術前カンファレンスで最終決定を行っている。
上原圭介	名古屋大学医学部附属病院 消化器外科一講師	愛知県	腹腔鏡手術の手腕を高く評価され、次代を担う大腸外科医と目されている。治療困難な骨盤内再発の外科治療にも積極的に取り組む。
坂井義治	京都大学医学部附属病院 消化管外科科長	京都府	腹腔鏡手術だけでなく、直腸がんのロボット手術、経肛門内視鏡手術（TaTME）も実施。希望に応じ、人工肛門を避け、再発を減らす治療をめざす。
関本貢嗣	大阪医療センター 副院長	大阪府	原則、全症例に腹腔鏡手術を適応し、直腸がんは極力、肛門と機能の温存をめざす。他施設で治療困難な超進行がんや再発がんを多く引き受けている。
野村明成	大阪赤十字病院 消化器外科副部長	大阪府	直腸がんの腹腔鏡手術やロボット手術による、機能温存根治手術が専門。腫瘍の確実な切除、排便・排尿・性機能の温存、人工肛門の回避を実現する。
川村純一郎	近畿大学医学部附属病院 外科講師	大阪府	腹腔鏡手術を数多く行っている。進行がんに対しても、抗がん剤や放射線を組み合わせた集学的治療を行い、がんの根治をめざした手術に取り組む。
奥田準二	大阪医科大学附属病院がんセンター 特務教授、先端医療開発部長（消化器外科）	大阪府	腹腔鏡手術のバイオニアの一人。年間500件余り行う手術のうち、6割が難易度の高い直腸がん。手術の質向上のため、立体視できる3D腹腔鏡に取り組む。
池田正孝	兵庫医科大学病院 下部消化管外科准教授	兵庫県	大腸がんの低侵襲手術や、再発大腸がんに対する積極的な外科治療を多数経験。患者の負担を一層減らすことを主眼に、再発大腸がんなどの手術に臨む。
長谷川傑	福岡大学病院 消化器外科教授	福岡県	丁寧で合併症の少ない腹腔鏡手術がモットー。肛門はできるだけ温存するほか、抗がん剤、放射線、免疫治療など多様な方法で患者が喜ぶ治療を実現する。
藤田文彦	久留米大学病院 外科・内視鏡手術センター副センター長	福岡県	腹腔鏡手術により、患者に負担の少ない大腸がん手術を目指す。特に直腸がんの患者では、可能な限り肛門を温存するよう努めている。